

目次

審査員講評 永井一正	1
大 賞	2
A: 装飾部門	4
B: ガラス装飾部門	6
C: サイン部門	8
審査員特別賞	10
審査員講評	11
福田繁雄／菊竹清訓／内田 繁／佐藤 卓／原 研哉	
ご挨拶 中川幸也	16
応募要項	
表紙デザイン／永井一正	

CONTENTS

GRAND PRIX AWARD	2
A: DECORATION CATEGORY	4
B: GLASS DECORATION CATEGORY	6
C: SIGN CATEGORY	8
SPECIAL JUDGES AWARD	10
JUDGES' COMMENTS	13
Kazumasa Nagai / Shigeo Fukuda / Kiyonori Kikutake / Shigeru Uchida / Taku Sato / Kenya Hara	
ACKNOWLEDGEMENT Yukiya Nakagawa	16
SOLICITATION CONDITIONS	
Cover Design by Kazumasa Nagai	



Kazumasa Nagai

環境の日常に浸透

永井一正

CSデザイン賞も第15回を迎え、発足以来4半世紀を超えることになった。当初から審査に参加してきた私は、一入感無量である。中川社長が当時CSデザインの質を上げ街の環境・美観に貢献したいとの思いから勝見勝先生に相談されこのデザイン賞が発足した。中川社長のその思いは今や普及し、ビルや店舗・サイン・輸送機器等に多くのCSが使用され、そのデザインが重視されていることは明らかで、CSデザイン賞の内容も益々充実してきたように思う。

今回大賞の〈イタリアンジェラート ロノ〉は、ガラス面のCSが、美しくシンプルにデザインされており、その影も美しくCSデザインの原点ともいべき正道であり、ゆるぎないデザイン力を感じさせてくれた。

装飾部門金賞の〈passeggiata / She is like a rainbow〉は落書きのようなイラストレーションに独自の味があり暖かい気持ちにさせてくれる。そしてガラス面や壁面のイラストレーションと、大きくとられた空白面との絶妙のバランスが美しい。

ガラス装飾部門金賞の〈松永真のウェルネスデザイン〉は、松永真の優れた造形感覚がそのまま美しい色彩と構成として個展会場のガラス面一杯に展開し目を楽しませてくれた。

サイン部門金賞の〈日産自動車デザインセンター〉は、その広い空間を巧みに誘導しながら、サインとして機能をはたし、清潔でダイナミックな展開がわくわくするような高揚感をもたらす。この部門、銀賞の〈横須賀美術館〉、そして銅賞の〈乃村工藝社〉と金・銀・銅の三賞を廣村正彰は一人じめにした。全く意識せずに選んだ結果であり、同一人のデザインと気づき審査会でも話題にのぼったが、明らかに優れたそれぞれであるためそのままにした。

審査員特別賞の〈touch the COLOR〉は、その構成・色彩感覚、そして機能を見事に備えたショールームであったが、中川ケミカルのものであったため、あえて本賞から外し特別賞にした。

こうして一通りの賞を通覧すると、あまり奇抜なものではなく、機能と美しさが調和し、街や建築になじみながら、美しい環境を形成し、CSデザインが日常に浸透した結果の積み重ねが、このような厚みを増してきたように思う。

(グラフィックデザイナー)

作品名/イタリアンジェラート ロノ

デザイナー/三宅博之

クライアント/(株) シンスケ

施工/(有) オカ巧芸



Title / Italian gelato RONO

Designer / Hiroyuki Miyake

Client / Shinsuke

Constructor / Oka Kougei



GRAND PRIX AWARD

A: 装飾部門

金賞

作品名/展示会 "She is like a rainbow"

ディレクター+デザイナー/大谷有紀
イラストレーター/井上恵子+大谷有紀

施工/2e

加工/有限会社クランク

作品名/展示会 "passeggiata"

ディレクター+デザイナー/大谷有紀
イラストレーター/井上恵子+大谷有紀+皆川
クライアント/foro08 (フェロ・ゼロット)

施工/2e

加工/有限会社クランク



Gold Award

Title / Exhibition "She is like a rainbow"

Director + Designer / Yuki Otani

Illustrators / Keiko Inoue + Yuki Otani

Constructor / 2e

CS Processor / Quirk

Title / Exhibition "passeggiata"

Director + Designer / Yuki Otani

Illustrators / Keiko Inoue + Yuki Otani + Akira Minagawa

Client / foro08

Constructor / 2e

CS Processor / Quirk



銀賞

作品名／＜おいしくたべるくらしのデザイン展＞

ディレクター＋デザイナー／田中行

ディスプレイデザイン／Goma 照明計画／山下節子

クライアント／リビングデザインセンターOZONE

施工／(株)エクス・アドメディア 加工／(株)中川ケミカル



Silver Award

Title / "Life of Tasty Dining Design Exhibition"

Director + Designer / Yuki Tanaka

Display Design / Goma Lighting Plan / Yuko Yamashita

Client / Living Design Center Ozone Constructor / Ex Admedia

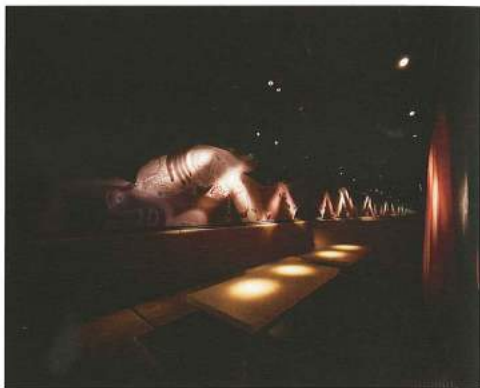
CS Processor / Nakagawa Chemical Inc.

銅賞

作品名／public food bar GIMMICK

デザイナー／今福彰俊

クライアント／株式会社コア・スタイル



Bronze Award

Title / public food bar GIMMICK

Designer / Akitoshi Inafuku

Client / Core Style Co., Ltd.

A: DECORATION CATEGORY

金賞

作品名／第9回亀倉雄策賞受賞展＜松永真のウェルネスデザイン＞

ディレクター＋デザイナー／松永真

クライアント／クリエイションギャラリーG8

施工／(株)中川ケミカル



Gold Award

Title / 9th Yusaku Kamekura Design Award Winning Exhibit: "Wellness Design by Shin Matsunaga"

Director + Designer / Shin Matsunaga

Client / Creation Gallery G8

Constructor / Nakagawa Chemical Inc.

銀賞

作品名／安部 良展＜アーキロマンス—空間との親密さ＞

ディレクター／安部 良

デザイナー／新原 滋

クライアント／リビングデザインセンターOZONE



Silver Award

Title / Ryo Abe Show "Archiromance—Intimacy in Between Space and Spirit"

Director / Ryo Abe

Designer / Shigeru Orihara

Client / Living Design Center Ozone

銅賞

作品名／紙の展示会＜Think PAPER＞の装飾

ディレクター＋デザイナー／増永 明子

クライアント／平福秋葉株式会社

施工／HESO design, LTD



Bronze Award

Title / Decoration of Paper Show "Think PAPER"

Director + Designer / Akiko Masunaga

Client / Heiwa Paper Co., Ltd.

Constructor / Heso Design, Ltd.

B: GLASS DECORATION CATEGORY

金賞

作品名/日産自動車デザインセンター

ディレクター/奥村正彰

デザイナー/丸山智也

クライアント/日産自動車株式会社

施工/株式会社乃村工務社



Gold Award

Title / NISSAN MOTOR Design Center

Director / Masaaki Hiromura

Designer / Tomoya Maruyama

Client / Nissan Motor Co., Ltd.

Constructor / Nomura Co., Ltd.

銀賞

作品名／横須賀美術館

ディレクター／廣村正彰

デザイナー／丸山智也 写真／瀧 康太

クライアント／横須賀美術館

施工／鹿島建設株式会社



Silver Award

Title / Yokosuka Museum of Art

Director / Masaaki Hiromura

Designer / Tomoya Maruyama Photographer / Kota Taki

Client / Yokosuka Museum of Art

Constructor / Kajima Corporation

銅賞

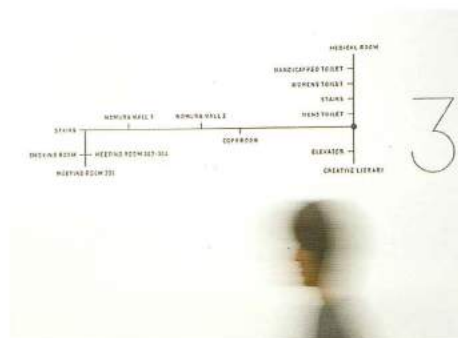
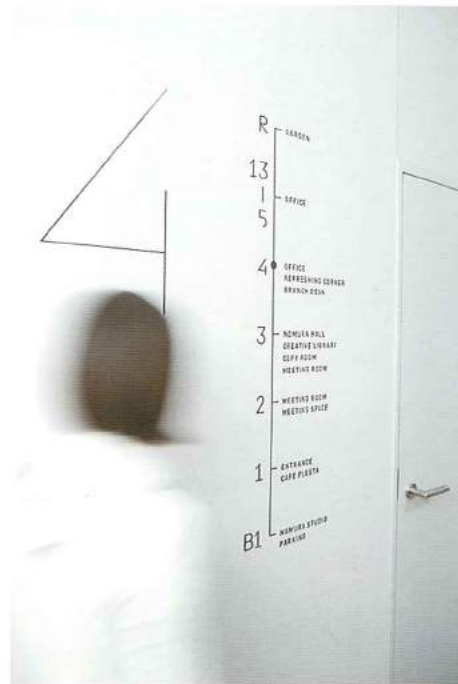
作品名／乃村工芸社本社ビル

ディレクター／廣村正彰 デザイナー／丸山智也

クライアント／株式会社乃村工芸社

プロデュース／株式会社乃村工芸社 本社建設推進委員会

施工／株式会社ノムラコムス



Bronze Award

Title / NOMURA Headquarters Building

Director / Masaaki Hiromura

Designer / Tomoya Maruyama

Client / Nomura Co., Ltd. Producer / Nomura Co., Ltd.

Constructor / Nomura Coms Co., Ltd.

C: SIGN CATEGORY

作品名／"touch the COLOR" (CSデザインセンターオープニング企画展)

デザイナー／エマニュエル・ムロー

CSデザインセンター設計／エマニュエル一級建築士設計事務所

クライアント／(株)中川ケミカル

施工／(株)中川ケミカル



Title / CS Design Center Opening Exhibition "touch the COLOR"

Designer / Emmanuelle Moureaux

CS Design Center Design / Emmanuelle Moureaux Architecture & Design

Client / Nakagawa Chemical Inc.

Constructor / Nakagawa Chemical Inc.

SPECIAL JUDGES AWARD



福田繁雄 Shigeo Fukuda



菊竹清訓 Kiyonori Kikutake



内田 繁 Shigeru Uchida



佐藤 卓 Taku Sato



原 研哉 Kenya Hara

新しい発想を

福田繁雄

CSデザインコンペの最大のポイントは、カッティングシートという素材が、どこに、どのように、新しい発想を感知させながら登場させるかというクリエイティブの技の競演という国内唯一のユニークなデザインコンクールで、そのハードルは映像審査という点でもある。

装飾部門は透過性のCSの特性を生かしたスペース演出が不思議なメルヘン現実を創りあげた秀作ぞろい——。

ガラス装飾部門はK氏賞作品のカラーイメージで展示会場外部面に、そのまま構築させるという納得の発想が金賞に輝いた——。

サイン部門を独占入賞した廣村氏の空間計画には、指示機能プラス、明るい親しみの好感度は抜群、サイン世紀の展開を暗示して見事だった——。

清潔な外装、ジェラートショップとは信じられない格調、小さな店にヨーロッパスタイルの黒の直線、大理石パターン。矩形ガラスの入口扉の上部が、やはり欧米風の円形アーチ。絶妙な照明効果によって、その小さな環境に出来る影が、CSを脇役から主役に登場させて、近年にない知的なデザインとして大賞に輝いた——。

自由・実験・アート部門は、明日に向けてのクリエイティブの冒険、デザイン検査、そして発見と重要、そして面白い分野で期待していただけに残念。次回を楽しみに……。

(グラフィックデザイナー)

第15回CSデザイン賞講評

菊竹清訓

私は、中川ケミカルのカッティングシートの発展は、企業の内在的な創造意欲はもとより、ガラス技術に対する社会的需要がもたらしたものだという解釈が妥当だと思っている。

20世紀以降、これほどまでにガラス技術が発達し、建築材料として多用されることになるとは思

いもしなかった。特に、ミラーガラスの出現による驚くべき発想の転換で、まるで魔法のように空間を囲ったり、解放したり、遮蔽したりすることが可能になった。日射の遮蔽に優れた熱線反射ガラスは、建築のファサードとしてより慎重に選択することで、省エネルギー効果も期待できる。ほかにも、強化ガラスやダブルガラス、表面処理、ジョイント、サッシなど、様々な研究開発の技術的成果が、それまでの建築環境を一新し、まさしくガラス建築の時代を予感させるものとなった。

今年のCSデザイン賞審査においては、二つの点で大いに感じるところがあった。

まず、オフィスや展示・商業施設など個別のデザインに、洗練されたレベルの高さが窺えたことは、非常に喜ばしいことである。特に、大賞の作品〈イタリアンジェラート ロノ〉に代表されるような、カッティングシートとガラスの融合を光の効果で最大限に生かした、ユニークな発想と豊かな表現力が印象的だった。これは、デザイナーにこのような発表の機会を与えて下さっている、中川ケミカルの功績によるところが大きい。

もう一つは、建築で問題になっている景観デザインの分野を担うのは、カッティングシートによる変幻自在な表層デザインの新領域ではないかと思っている。ガラスや印刷技術の進歩と相まって、建築内外の新しい可能性を追求してきたカッティングシートは、その加工性と柔軟性により、無秩序になりがちな街並みや建築空間に、新鮮な統一感を与えてくれる。この点で成功しているのは、躍動感あるデザインで常に変化し続ける、東京の銀座通りである。さらに、これから手がけたい所として、例えば雪祭りや有名な北海道の札幌大通りがある。私も、いつかどこかの都心再生プロジェクトで、もっと自由にこれらのアイデアを展開できたらと思っている。

今後、カッティングシートが日本文化の新しいアイデンティティとして、環境デザインの新しい役割を担っていくことを期待したい。

(建築家)

新たなデザインの解釈

内田 繁

今回のCSデザイン賞は例年に比べるとやや広がり少ないものだった。前回の講評では、「いよいよシート時代が来た」と述べたのだが、それはシートが建築室内空間のベーシック素材として使われはじめた画期的な状況を感じたからである。それは壁、天井、床といった建築空間の主要材料として、他の一般的な素材の仲間入りを果たしたことであった。シートのもっともポピュラーな使われかたはグラフィック表現だろう。そこにはパターン、色彩などの表現から、サイン、グラフィックコミュニケーション、さらに展覧会、エキジビションなどのグラフィック表現に広くつかわれている。しかし、今日特筆すべきことは、建築空間に使われたことである。たとえば、壁の仕上げ材として、シートは私たちデザイナーに多くの可能性を与えてくれる。こうした状況を前にして今回の対象作品に少々期待をしたのだが、結果は物足りないものであった。

そうしたなかでも今回大賞を獲得した三宅博之さんの〈イタリアンジェラート ロノ〉の店舗デザインは新たな視点で空間をつくりだした秀作だろう。イタリアンジェラートという商品イメージを西洋の伝統的なモチーフでデザインすることは一般的だろう。だが、その西洋的表現をシートパターンによって成立させている。たとえば、扉、腰壁などをシートのパターンによって描かれている。従来なら建築部材で作られるものだが、シートのパターンを採用することによって西洋の建築の持つ重苦しさから脱している。シートの軽やかさと黒で描かれた扉、腰壁がいかにも清潔で軽快なイメージをつくりだしている。さらに、そこに差し込む光と陰が新たな伝統的なデザインの解釈としての新しさをつくりだしている。

装飾部門、ガラス装飾部門、サイン部門などの金、銀、銅賞はすべてグラフィカルな表現で構成されている。いずれも良質で安定した表現は日本のグラフィックデザインの水準の高さを感じられると同時に、こうしたグラフィカルな、あるいは

色彩的な構成、さらにサインなどのグラフィックコミュニケーション的な使われかたにこそ、このCSシートの独壇場であることを認識させられた。

(インテリアデザイナー)

身体感覚を取り戻すための「部分」

佐藤 卓

今年は大賞作品、そして装飾部門金賞に代表されるように、とても繊細なものが高く評価されることとなった。審査をしていて、ビル壁面全面を使うような大掛かりな作品に、カッティングシートの新たな可能性が見出せなかったからに他ならない。ガラス壁面全面にシートを貼って、建築そのものの有り様を変えてしまうような作品が、そう毎年に出てこないのかもしれない。逆に今年それとは対照的に、身体感覚に訴えるような空間演出に新たな可能性が見出せたのは、新鮮な発見であった。大壁面を覆うという方向性ではなく、どちらかという繊細な「線」を活かした使い方である。シート素材は「面」であるため、いつの間にかシートで空間に「面」を作る意識が働いてしまう。これはカッティングの技術がまだまだ現在のようには至っていないころのシートの概念が残っているからなのだろう。しかし今年の受賞作品を見て改めて、近年のカッティングの技術が、まるで絵を描くように、そしてコンピューターで線を描くような自由を与えてくれていることに気付かされる。これは作品が、シートという素材とカッティングの技術が近年になって、より人間の身体感覚に訴えかけることを可能にしている表現方法であることを教えてくれているということである。

このことは実は、都市型デザインの大きな流れと結び付けて考えることはできないだろうか。都市には大型のビルを伴った複合施設、つまり頭で考えた街づくりが蔓延しているが、それがほんとうに人にとって心地いい空間に至っているのかというと、どうもそうでもないと感じている人が多いように思う。人は施設の全体を把握することなど、専門家でなければもともとできないし、仮に

しなければならぬとすると、それはとても面倒なことなのである。心地良い体感を少しずつ繋いでいけばいいのであって、頭の中でつくられたプランの中に押し込まれたいくもない。そして、頭でつくられた全体から入ると、細部には神経がなかなか行き届かない。近代の街づくりはまさにこの手法が目立っているが、これからは、あくまで全体は想定しながら細部から全体をつくっていくというアプローチが見直されるのではないか。つまり誤解を恐れず極論を言えば、ミクロからマクロへ。そして結果として人間の側に委ねるという余地を残す。プランは大切であるが、プランの中に人を押し込めないということの重要性。近年の大型複合施設のアプローチではなく、まるで東京の下北沢の街がつくられてきたような有り様と例えれば、分かりやすいかもしれない。特に、今年の大賞そして装飾部門金賞作品を見ていて、今後都市には、より身体で感じる丁寧につくられた「部分」がもっとも必要になってくるだろうと思わされた。

(グラフィックデザイナー)

物質からのがれる浮遊感

原 研哉

初めて審査に参加させていただいたが、単純な投票ではなく、論議を交わしながら合意点を捜し当てていく審査スタイルが新鮮で、賞を決めるといっても、新たなものの見方を捜し当てていくような審査のプロセスをとっても有意義に感じた。そういう意味では、カッティングシートという素材の「物質性」から逃れて、空間に鮮度と繊細さを同時に生み出しているような作品にひかれた。

大賞を受賞したイタリアンジェラートのショップ・ディスプレイは、それを象徴する作品であった。透明なガラス壁面に黒い線で描かれたパターンに光が当たると、その影が床にくっきりと映る。この「影」にデザインの主題がある。昼に外から射す直射日光が店内の床に描くシャープな影、そして、夜に内側から光る室内照明によって外側に

張り出すデリケートな影。単純な原理ではあるが、その繊細な現象に気づいた瞬間、その経験は忘れがたく見る人の記憶に焼き付く。訪れるたびに微妙に表情を変える影の風情は、インテリアに常に不思議な透明感を与え続けるに違いない。そこにはもうカッティングシートという物質の痕跡はなく、浮遊感のあるイメージだけがある。アーチの形や正方形のパターンで、明快にイタリアのイメージを描きつつ、常に変化する影の軽快さが、ジェラートショップの鮮度を際立たせるのである。

装飾部門の金賞を受賞した展覧会のディスプレイも、白い壁面から、透明なガラス面へ、さらには床面へと、柔らかい図像を自由にのびのびと展開させていくところが秀逸である。面を選ばないカッティングシートの奔放な表現の魅力を、さりげなく、しかし徹底的に感じさせてくれる作品である。

サイン部門の受賞作は、いずれも面ではなく線を、様々な素材を横断的に伸展させることによって、空間に軽妙なレイヤー感や連続性を生み出している。

同じ傾向が、ガラス装飾部門にもあり、面の重なりを意識した多層性や、細やかなドットを単純な面と組み合わせた同一平面での奥行き感、あるいは、影の輻輳が、オリジナリティある効果を生んでいた。

審査員特別賞の〈touch the COLOR〉は、カッティングシートの表現の王道を行く説得力と完成度を備えた秀作であったが、カッティングシートそのものの展示空間であることが、他の実践的な表現とは異なり、賞の性格上、これは他の作品と区別して顕彰することとなった点も記しておきたい。

総じて、ダイナミズムや、力強さよりも、微妙だが、確かな視点の差異を明快に意識している作品に秀作が目立っていたと思う。

(グラフィックデザイナー)



審査風景

Judging scene

Penetrating the Everyday Environment Kazumasa Nagai

The CS Design Awards are marking their 15th competition and surpassing a quarter century after their establishment. I, who have served as a judge ever since their establishment, am overcome with emotion. The CS Design Awards were established after President Yukiya Nakagawa of Nakagawa Chemical Inc. consulted Masaru Katsumie because he wanted to improve the quality of cutting sheet design at that time and contribute to the street environment and aesthetics. President Nakagawa's feelings have now spread, and many cutting sheets are now used in buildings, stores, signs and transport machines. It is clear that importance is attached to CS design, and I feel that the contents of the CS Design Awards have become increasingly enriched.

In "Italian gelato RONO," which won the Grand Prix Award, the CS on the glass surface was beautifully and simply designed. The shadow is also beautiful and is the right path which can be called the origin of CS design. It made one feel the unwavering power of design.

There is an individual taste to the doodling-like illustrations in "passeggiata" and "She is like a rainbow," which won the Gold Award in the Decoration Category, and made one feel warm. Also, the exquisite balance between the glass surface and wall illustrations and the spacious blank spaces is beautiful.

In "Wellness Design by Shin Matsunaga," which won the Gold Award in the Glass Decoration Category, Shin Matsunaga's excellent design sense unfolded on the full glass surface of the one-man show site as beautiful color and composition to delight the eyes.

"NISSAN MOTOR Design Center," which won the Gold Award in the Sign Category, functioned as a sign while skillfully guiding people through the spacious space, and the neat, dynamic development brought about a thrilling uplifting feeling. In this category, Masaaki Hiromura monopolized the Gold, Silver and Bronze awards with his "Yokosuka Museum of Art" taking the Silver Award and his "NOMURA Headquarters Building" taking

THE 15TH CS DESIGN AWARDS JUDGES' COMMENTS

the Bronze Award. It was the result of the judges selecting the award-winning works with complete disregard of the designer. After finding out that all three works were by the same designer, the judges discussed the matter, but decided to leave the matter as is since the works were clearly outstanding.

The "touch the COLOR," which won the Special Judges Award, was a show room which splendidly possessed composition, color sense and function. But because it was a Nakagawa Chemical show room, it was not given the regular CS Design Award but was presented with the Special Judges Award.

As I look at the works which won various awards, I find that there are no works which are too unique. The works which won awards have harmonized function and beauty and have formed a beautiful environment while becoming intimate with the streets and architecture. I feel that the accumulation of the results of CS design infiltrating our daily lives has brought about this thickness in depth.

Graphic Designer

Sensing New Ideas

Shigeo Fukuda

The most important point of the CS design competition is the fact that it is the one and only unique design concours which is a contest of creative techniques of where and how to have the material called the cutting sheet appear while sensing new ideas. Its hurdle is the fact that it consists of judging the photographs of actual works.

The Decoration Category consisted of outstanding works in which the space presentation, which made use of the special light transmission quality of the CS, created a mysterious fairy tale reality.

In the Glass Decoration Category, the convincing idea of having the color image being constructed as is on the outside of the exhibition site of the Yusaku Kamekura Design Award Winning Exhibit works won the Gold Award.

In the space plans of Masaaki Hiromura, who monopolized the three awards in the Sign Category, the indication function plus the bright favorable impression were outstanding. His works were brilliant, hinting at the unfolding of the sign century.

A neat facing a style unbelievable for a gelato shop, an European style black line in a small shop and a marble pattern. The upper part of

the entrance door of glass is, as expected, an European arch. The shadows created in this small environment by the superb illumination effect have elevated the CS from a supporting actor to the main actor, and the work won the Grand Prix Award as an intelligent design not seen in recent years.

As for the Free-Experiment-Art Category, I was disappointed since it is such an interesting category because it involves creative adventure, inspections of designs and discoveries. I look forward to the next CS Design Awards.

Graphic Designer

Comment on the 15th CS Design Awards

Kiyonori Kikutake

My belief is that the interpretation that the development of Nakagawa Chemical's cutting sheet was brought about originally by the company's inherent creative will but also by the social demand for glass technology is appropriate.

No one believed that after the 20th century glass technology would develop to this extent and would be so widely used as construction material. Particularly through the surprising changes in conception due to the appearance of mirror glass, it became possible to surround, free and screen space as if by magic. In the case of heat ray reflecting glass which is superior in screening solar radiation, hopes can be placed on energy conservation effects if such glass is carefully selected for the building facade. The technical results of various research and development efforts, such as tempered glass, double glass, surface treatment, joints and sashes, completely changed the existing construction environment and certainly predicted the age of glass construction.

In judging this year's CS Design Awards, there were two points which were impressive. First, in the individual designs of offices, exhibitions and commercial facilities, it was very gratifying that a refined, high-level quality could be seen. What was particularly impressive were the unique idea and rich expressive power which made maximum use of the harmony of the cutting sheet and glass through the light effects, as represented by "Italian gelato RONO," which won the Grand Prix Award. This is due in large part to the achievements of Nakagawa Chemical, which has given designers the opportunity to present their works.

The second point is that I believe that the one to dominate the field of scenic design, which has become a problem in construction, is the new domain of the ever-changing surface design using the cutting sheet. The cutting sheet which searched for new possibilities in the outside and inside of buildings, coupled with the advances in glass and printing technology, because of its easy processing and flexibility, gives a fresh feeling of unity to the street and construction space which tend to be disorderly. What is succeeding on this point is Tokyo's Ginza Street, which is constantly changing with vibrant designs.

I hope that the cutting sheet as a new identity of Japanese culture will assume the new role of environment design in the future.

Architect

A New Interpretation of Design

Shigeru Uchida

The works submitted for this year's CS Design Awards showed a somewhat less expansion compared to past years. In my comment on the 14th CS Design Awards I said that "the age of the cutting sheet has finally arrived," but that was because I had discerned the epochal situation in which the cutting sheet had begun to be used as a basic material in buildings and interior space. It meant that the cutting sheet as a major material in such building spaces as walls, ceilings and floors had joined the company of other general materials. The most popular use of cutting sheets is probably in graphic expression. Cutting sheets are used in various graphic expressions from patterns and colors to signs, graphic communication and exhibitions. But what should be particularly noted today is their use in building space. For instance, the cutting sheet gives designers many possibilities as a finishing material for walls. In view of such a situation, I had placed some expectations on the works concerned, but the results were unsatisfactory.

Amid such a situation, the "Italian gelato RONO" store design, which won the Grand Prix Award, is an outstanding work creating space from a new perspective. The Western expression of the Italian gelato image has been achieved by the sheet pattern. For instance, the door and side walls are drawn in sheet pattern. Ordinarily they are made from building materials, but the use of sheet patterns made the store design escape from the oppressiveness of Western buildings. The lightness of the cutting

sheet and the door and side walls drawn in black patterns have created a clean, lighthearted image. Furthermore, the light and shadows that come in have created the freshness of a new interpretation of traditional design.

The works that won the Gold, Silver and Bronze awards in the Decoration Category, Glass Decoration Category and Sign Category were all composed of graphical expressions. Every one of the works presented high-quality, stable expressions, attesting to the high level of graphic design in Japan. At the same time, I was made to realize that such graphical and color compositions and the graphic communication of signs are the monopoly of the cutting sheet.

Interior Designer

“Part” for Winning Back the Body Sensation

Taku Sato

As represented by the work which won the Grand Prix Award and the work which won the Gold Award in the Decoration Category this year, the very delicate ones were highly evaluated. This was only because when we were judging the submitted works, we were unable to discover new possibilities for the cutting sheet in the large-scale works using entire building facades.

This year, in contrast, it was a fresh discovery to detect a fresh possibility in the space presentation seeming to appeal to the body sensation. Rather than covering a huge wall surface, it is use of the CS utilizing the delicate “line.”

Looking anew at the works which won awards this year, I am made to realize that the cutting techniques in recent years have given designers the freedom to design like doing a painting and to draw lines as if with a computer. The works teach us that the material called the cutting sheet and the cutting techniques have become in recent years the expression methods making it possible to appeal more to the body sensation of human beings.

Isn't it possible to consider this matter while tying it in to the major flow in urban design? In cities, complex facilities including large buildings, in other words, town creation considered by the brain, are spreading. As for whether such facilities have become really comfortable spaces for people, it seems there are many people who do not feel they are

comfortable.

People feel it is best if they can tie together pleasant sensations little by little, and they do not want to be shoved into plans created within the head. And if they enter the whole created by the head, they find that attention has not been paid to the detailed parts. Since this method is conspicuous in modern city creation, from now on won't the approach of creating the whole from the detailed parts while imagining the whole be favorably reconsidered? If I go so far as to say without fearing misunderstanding, it is a changeover from micro to macro. And as a result, the leeway is left for leaving it up to the human being. The plan is important, but it is also important not to shove people into a plan. It is not the approach of the large complex facilities of recent years, and it may be easier to understand if it is compared to the way the Shimokitazawa town in Tokyo was created. Particularly after seeing the work which won the Grand Prix Award and the series of works which won the Gold Award in the Decoration Category, I was made to feel that in future cities “parts” which can be felt by the body and which have been conscientiously made will become even more indispensable.

Graphic Designer

Floating Feeling Escaping From Material

Kenya Hara

Participating in the judging for the first time, I found the judging style of searching for agreement while engaging in discussions, instead of just simply voting, very refreshing. I felt that the judging process of finding new ways of looking at the works, rather than deciding which works would win which awards, was very significant. In this sense, I was impressed by the works which produced freshness and delicacy in space while escaping from the “material nature” of the cutting sheet.

The Italian gelato shop display, which won the Grand Prix Award, was a work which symbolized this point. When the light hit the pattern of black lines drawn on the transparent glass surface, the shadow was reflected sharply on the floor. The subject of the design is this “shadow.” In the daytime, the direct sunlight from outside draws a sharp shadow on the floor inside the shop. At night, the illumination which shines out from inside the shop produces delicate shadows outside. This is a simple principle, but the moment people perceive this

delicate phenomenon, this experience will be unforgivably burned into their memories. The elegance of the shadow which subtly changes expression each time one visits the shop will doubtless continue to always give a strange feeling of transparency to the interior. There is no longer any trace of the material called cutting sheet, and there is only the image with a floating feeling. While clearly drawing the image of Italy with the arch and square pattern, the lightness of the ever-changing shadow makes the freshness of the gelato shop stand out.

The exhibition displays, which won the Gold Award in the Decoration Category, were excellent as they freely unfolded soft figures from the white wall surface to the transparent glass surface and then to the floor. It is a series of works which casually but thoroughly makes us feel the charm of the uninhibited expression by the cutting sheet which can work on any surface.

The works that won awards in the Sign Category used lines rather than surfaces and created a light layer feeling and continuity in space through intersecting extension of various materials.

The same trend could be seen in the works in the Glass Decoration Category, and effects with originality were created by the multilayered nature cognizant of the overlapping of surfaces, the feeling of depth in the same plane by combining small dots and a surface or the convergence of shadows.

The “touch the COLOR,” which was awarded the Special Judges Award, was an outstanding work with persuasive power and perfection running on the royal road of cutting sheet expression. But because the work consisted of the display space for cutting sheets, it differed from other practical expressions. I would like to note the fact that it was decided to differentiate it from other works and honor it separately.

In general, I felt that outstanding works were conspicuous among the works which were clearly cognizant of the small but certain differences in viewpoints, rather than works with dynamism and strength.

Graphic Designer

15回を振り返って

中川幸也

此度第15回CSデザイン賞の開催にあたり全国よりご応募いただいた皆様をはじめ、審査員の先生方、また変わらぬご支援を賜っている関係各位の方々に厚くお礼申し上げます。

ペイントに替わる色の材料として開発されたカッティングシートは、その使い易さから色の公害が懸念され、その事がこのデザイン賞の生い立ちになりました。その後このシート素材は適切に街を彩りながら普及し、今や、サイン、ショーウィンドウ、車輛のボディ装飾等あらゆる分野で活躍するようになりました。

今回、第15回、満26年の節目にあたり、この間のシート素材普及の流れと、その時々のCSデザイン賞の関わりを追ってみたいと思います。

記念すべき第1回CSデザイン賞は、勝見勝審査委員長のもと、1982年6月に開催されました。初

回でしたが、2116点の作品が集まり、大賞は銀座ソニービル外壁タイル全面に施された、1階から7階に及ぶスケールの大きな作品でした。万博や神戸博の告知広告3点シリーズで、足場も組まずに短期間で3回の貼り替え作業は、シート素材ならではの作品でした。素材の使い易さ、景観に与えるインパクトなど、CSデザイン賞設立の意義を充分に感じさせるスタートでした。

その後、10年余りに亘りこのデザイン賞を賑わしたCI作品の数々は、正にシート素材が大活躍の場でありましたし、かつて都市景観上の問題点で、当初からこのデザイン賞の重要テーマでもあったビル工事現場の仮囲いは、当時思いもしないこの分野で、遂に第12回の大賞に輝き、今ではこの場所が夢のあるデザインスペースとして成長していることは、このCSデザイン賞にとっても実りの多いことであったと思います。

シート素材の優れた特性の1つとして光の演出に適している事があげられますが、第10回、第

11回連続して大賞になった資生堂の作品は、シーートの持つ光の演出効果の可能性を充分に感じさせる作品でした。更に、前回第14回では、ガラスの外壁全てをすりガラス調の半透明シートで覆い、建物全体で光を演出するスケールの大きな作品が大賞になりました。

今回第15回も、シートを通した光の三次元効果を上手に使った作品が大賞に輝くなど、光と影を意識した新しい流れが出来ているように思います。作品の可能性が広がるにつれて、このCSデザイン賞の道しるべ的役割もまた進化して行くべきと考えております。次回もまた幅広いご応募で、このCSデザイン賞を盛り上げてくださるようお願い申し上げます。

なお、今回から審査委員に新しく原研哉先生をお迎えして、審査の先生方が元の6人体制に戻りました。ここにご報告させていただきます。

(株式会社中川ケミカル代表取締役社長)

ACKNOWLEDGEMENT

Looking Back on the Past CS Design Awards

Yukiya Nakagawa

On the occasion of the 15th CS Design Awards, I would like to sincerely thank the many designers who submitted works from all over the country, the elite judges and those concerned of the various organizations who have continued to give us unfailing support.

Concerning the cutting sheet which was developed as a color material to replace paint, there were worries about color pollution because the cutting sheet is so easy to use, but this fact led to the establishment of the CS Design Awards. Since then, this sheet material became very popular while decorating the streets and is now very active in various fields, including signs, show windows and vehicle body decoration. On this 26th anniversary and the occasion of the 15th CS Design Awards, I would like to follow the popularization of the sheet material during the 26 years and note the connections of the various CS Design Awards to this popularization.

The commemorative 1st CS Design Awards were held in June 1982 under Chief Judge Masaru Katsumie. Although it was the first

one, 2,116 works were submitted. The work which won the Grand Prix Award was a large scale one covering the entire outer tile wall of the Ginza Sony Building from the first to the seventh floors. The three-piece series of notice advertisements for the Tsukuba Expo '85 and Kobe Exposition, in which the advertisements were re-pasted within a short time without having to erect scaffolding, were possible only because of the sheet material. The easy-to-use material and the impact it has on the scene. It was a start which made us fully feel the significance of establishment of the CS Design Awards.

The many works which won CS Design Awards in the over ten years since then were the works in which the sheet material was very active. The temporary fences around building construction sites were originally considered problematic from the standpoint of the city scene, and this problem was considered a major theme of the CS Design Awards from the very beginning. But a temporary fence work finally won the Grand Prix Award in the 12th CS Design Awards. That the temporary fence has grown into a full-of-dreams design space is, I feel, very fruitful for the CS Design Awards.

That the sheet material is appropriate for light

production is listed as one of the outstanding features of the sheet material. The Shiseido works winning the Grand Prix Award successively in the 10th and 11th CS Design Awards were works making one fully feel the possibilities of light production effects that the cutting sheet possesses. Furthermore, in the 14th CS Design Awards, a large-scale work in which the entire glass facade was covered by a semitransparent frosted-glass type sheet and the entire building produced light won the Grand Prix Award.

In the 15th CS Design Awards, the work which effectively used the three-dimensional effect of light passing through the sheet won the Grand Prix Award, and I feel that a new trend cognizant of light and shadow has been established. As the possibilities of works expand, I feel that the guidepost type role of the CS Design Awards will also evolve.

I look forward to many works being submitted for the 16th CS Design Awards to make it more prestigious. I would like to note that from the 15th CS Design Awards, Kenya Hara served as a new judge, returning to the previous six-judge format.

President, Nakagawa Chemical Inc.

第15回CSデザイン賞2008募集要項

「色を通じて社会貢献したい」と願う中川ケミカルが豊かな環境作りを目的にCSデザイン賞を設定し、広く作品を募集します。

募集作品

「貼る塗料」として、一般に市販されているサイン・デザイン・装飾用粘着シート(例<商品名>:カッティングシート、タフカル、NOCSなど)を使用したもので2006年4月1日より2008年3月31日までに実際に制作された作品とします。

A: 装飾部門／装飾を目的として制作されたもの: 建築ファサード・エクステリア・店舗・インテリア・イベントの空間(原則として閉会時に撤去されるもの)および各種輸送機器など

B: ガラス装飾部門／ガラス全般に装飾や光の演出を目的として施工されたもの: ウィンドウディスプレイ・パーティションを含む各種施設

C: サイン部門／サインおよびサインシステム(CIも含む)の一部として制作されたもの: 大型広告塔から店舗小型サイン・交通施設・住環境施設・複合施設のサインシステムおよびシンボル・モニュメント(記念碑・時計塔などの象徴的でかつアイデンティティの強いもの)など

D: 自由・実験・アート部門／平面・立体を問わず独創性のある作品: 芸術・工芸作品・実験的なもの・その他(既発表、未発表を問わない)

審査員(順不同、敬称略)

永井一正(審査委員長)
福田繁雄 菊竹清訓
内田 繁 佐藤 卓
原 研哉

後援団体(順不同)

社団法人 日本グラフィックデザイナー協会
社団法人 日本商環境設計家協会
社団法人 日本サインデザイン協会
社団法人 全日本屋外広告業団体連合会
社団法人 日本ディスプレイデザイン協会
NPO法人 日本タイポグラフィ協会

協賛 日経デザイン

主催 株式会社中川ケミカル

The 15th CS Design Awards 2008 Solicitation Conditions

The Nakagawa Chemical Inc., which is hoping for a "Better World Through Color," established the CS Design Awards with the aim of creating a rich environment and is soliciting works for these awards.

The works to be submitted must have been designed and produced between April 1, 2006, and March 31, 2008, using any type of self-adhesive film for graphic applications generally sold as "pasting paint," such as Cutting Sheets, Tuffcal, NOCS and others.

A: Decoration Category / Those produced for decoration: Building facades, exteriors, stores, interiors, event spaces (in principle, those that are removed after completion) and transport machines such as vehicles, aircraft and ships.

B: Glass Decoration Category / Facilities in which cutting sheets have been used to decorate or produce the light effects on all types of glass, including window displays and partitions.

C: Sign Category / Signs and works produced as part of a sign system (including CI): Large advertising towers, small store signs and sign systems of traffic facilities, housing environment facilities and comprehensive facilities. Also symbols and monuments: Works which are symbolic and have strong identities such as monuments and clock towers.

D: Free-Experiment-Art Category / Works with originality regardless of whether they are two- or three-dimensional. Arts, crafts, experimental works and others (can be either published or unpublished, submitted to other competitions or not).

Judges

Kazumasa Nagai (Chief Judge)
Shigeo Fukuda Kiyonori Kikutake
Shigeru Uchida Taku Sato
Kenya Hara

Supporters

- Japan Graphic Designers Association
- Japanese Society of Commercial Space Designers
- Japan Sign Design Association
- Japan Typography Association
- Federation of All Japan Out-door Advertising Associations
- Japan Display Design Association

Cooperator Nikkei Design

Sponsor Nakagawa Chemical Inc.

カタログ制作/株式会社中川ケミカル 第15回CSデザイン賞係 2008年9月

編集/グラフィックデザイン社
表紙デザイン/永井造形研究所
レイアウト/中山ミミ
英訳/藤田シグ

Catalogue Production:
The 15th CS Design Awards Section,
Nakagawa Chemical Inc., September 2008
Edited by Graphic Design Associates
Cover Design: Kazumasa Nagai Design Institute
Layout: Mimi Nakayama
English Translation: Shig Fujita



本社:〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-1-6 岩田屋ビル4F TEL 03(5835)0341(代)
大阪営業所: TEL 06(6543)2661(代) 札幌営業所: TEL 011(736)4788(代) 福岡営業所: TEL 092(431)3013(代)
NAKAGAWA CHEMICAL INC.
Head Office: Iwataya Bldg., 2-1-6 Higashi-Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0004, Japan, TEL 03(5835)0341
Osaka Office: TEL 06(6543)2661 Sapporo Office: TEL 011(736)4788 Fukuoka Office: TEL 092(431)3013